

平成 22 年 5 月 5 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2010
 課題番号：18320051
 研究課題名（和文） 来日ロシア人の社会的諸活動についての総合的研究
 研究課題名（英文）Comprehensive Studies on the Social Activities of Russians in Japan

研究代表者
 P Podalko（P Podalko）
 青山学院大学・国際政治経済学部・准教授
 研究者番号：50383493

研究成果の概要（和文）：平成 18 年 4 月より 22 年 3 月までの 4 年間に例会を 20 回、研究会合宿を 2 回（神戸市立大学、東北大学）行い、この間、研究会のニューズレター『異郷』（年 3 回発行）を no.21-32 計 12 号を刊行し、論文集『ロシアと日本』を 2 冊（vol.7,8, 2008 年 3 月、2010 年 3 月）を刊行した。

研究成果の概要（英文）：During four years between 2006~2010 we held 20 regular meetings and 2 intensive meetings (at Kobe Univ. and Tohoku Univ.), and published 12 news letters (no.21-32) and two collections of articles(vol.7,8) .

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	4,000,000	0	4,000,000
2007 年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2008 年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2009 年度	2,700,000	810,000	3,510,000
総計	14,900,000	3,270,000	18,170,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：日露交流、ロシア革命、難民、共生、異文化理解

1. 研究開始当初の背景：

当研究会は平成 9 年-12 年度、13 年 16 年度に学術振興会より科学研究費補助金を得て研究会活動を行ってきたが、この度の 4 年間は其の継続である。

2. 研究の目的：

ともすれば軋轢の多い日本とロシアの近代における関係を、人と人の交流を中核とした文化交流の跡を辿ることにより多角的に明らかにすることを通じて、両国が文化的にい

かに深く影響しあっているかを明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法：

各自のテーマに即して研究活動を展開し、その成果を 2 ヶ月に一度、年 5 回の例会にて順次披瀝しあい、情報を共有しつつ、2 年に一度の論文集でその成果を集約する。その間、例会に研究分担者、連携研究者以外の人々をも招聘し情報の提供を受け、各自の研究の深化と発展を助成する。

4. 研究成果：

4 年間に例会を 20 回(年 5 回)開催した、その成果はその都度ニューズレター(年 3 回、計 12 号、通巻 21 号 32 号) 共同論文集 2 冊(2 年に一度、通巻 7,8 巻)を刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 26 件)

1 エルマコワ・リュドミラ「ロシアの掛け歌 khorovod について」『アジアの歌と万葉集』第 6 回万葉古代学研究所公開シンポジウム 2009 奈良県万葉古代学研究所 67 - 72 ページ(日本語)

2 エルマコワ・リュドミラ「日本古代文学と「作者」の問題」『日本文化の解釈 ロシアと日本からの視点』/Interpretations of Japanese Culture. View from Russia and Japan. Ed. by James C. Baxter. 国際日本文化研究センター International Research Center for Japanese Studies. 京都 2009 45-56 ページ(日本語)

3 エルマコワ・リュドミラ「ロシアの歌文化と掛け歌のタイポロジーについて」『万葉古大学研究所年報』奈良市万葉古大学研究所 2010, 3 61-76 頁(日本語)

4 太田丈太郎「レニングラードの『織田信長』」-歌舞伎訪ソ公演再考」『異郷に生きる IV』成文社、2008 年、155 - 170 頁。

5 太田丈太郎「レニングラードの『織田信長』」(2)-上演をめぐる新資料」中村喜和、長縄光男、ポダルコ・ピョートル編『異郷に生きる V』成文社、2010 年、289 - 305 頁。

6 太田丈太郎「コンラードの新婚旅行」『異郷』2010 年、12-14 頁。

7 サヴェリエフ・イゴリ「日露関係の「黄金時代」を構築して 本野一郎と日露接近 1906 1916 年」中村喜和、長縄光男、ポダルコ・ピョートル編『異郷に生きる V 来日ロ

シア人の足跡』成文社、2010 年、93-103 頁。

8 サヴェリエフ・イゴリ「第一次世界大戦期の中国人移民 ハルビンにおけるロシア企業による契約労働者の募集をめぐる諸問題」『国際開発研究フォーラム』第 38 号、名古屋大学大学院国際開発研究科、2009 年 3 月、41-54 頁。

9 Igor Saveliev, “Les nouveaux immigrants chinois sur le marché du travail russe: menace ou pari sur l’avenir?” in Laurence Roulleau-Berger (éd.) *Nouvelles migrations chinoises et travail en Europe*, Presses Universitaires du Mirail, 2007, pp. 45-66.

10 澤田和彦 平成 15~18 年度科学研究費補助金(基盤研究 C)研究成果報告書『幕末・明治・大正期の日本とロシアの文化交流に関する実証的研究』 埼玉大学教養学部 2007 年 5 月 iv+232 頁

11 清水俊行 「レフ・トルストイとロシア正教会 「トルストイとオプチナ修道院 -」(後篇)『神戸外大論叢』 第 60 巻 第 1 号 2009 年 9 月 pp.33- 64.

12 清水俊行「ペルミの大主教アレクサンドル(トルストピャートフ)と日本」『ロシア史研究』No.83. 2008 年 11 月 pp.38- 53.

13 清水俊行 「レオンチェフの思想遍歴とオプチナ修道院(補遺) - 資料紹介-レオンチェフの書簡より(1)」『ロシア思想史研究』第 3 号 2006 年 3 月 pp. 179- 202.

14 中村喜和 明治初期の公卿留学生万里小路正秀、長塚英雄編『ドラマチック・ロシア in Japan』,

15 中村喜和 生活ジャーナル社、2010 年 3 月、pp. 272-284.

16 中村喜和 亡命ロシア人の旅路-ヴィクトリア・ヤンコフスカヤの手紙を中心に、ピョ

- ートル・ポダルコ編『共同研究 ロシアと日本』第7集、pp. 85-98.
- 17 中村喜和 シベリアと向きあって三百年、武藤武・北川フラム編『つながる日本海』、現代企画室、pp. 217-231.
- 18 中嶋毅「社会主義ソ連における国家と社会の変容」メトロポリタン史学会編『いま社会主義を考える 歴史からの眼差し』桜井書店、2010年3月刊、105 - 148頁。
- 19 中嶋毅「ハルピンのロシア人社会」松里公孝編『講座スラブ・ユーラシア学』第3巻「ユーラシア 帝国の大陸」講談社、2008年3月刊、266 - 294頁。
- 20 中嶋毅「満洲国北満学院の歴史 1938 - 1945年」『ロシア史研究』第79号(2006年11月)、42 - 60頁。
- 21 ポダルコ・ピョートル「亡命ロシア人と映画 銀幕の歴史を踏まえて」、『異郷に生きる - 』ポダルコ他編、成文社、2010年3月、pp. 307 - 321 .
- 22 ポダルコ・ピョートル「三人の運命 半世紀におよぶ別離と邂逅」、『異郷に生きる - 』ポダルコ他編、成文社、2008年4月、pp. 71 - 81 .
- 23 ポダルコ・ピョートル「関東大震災とロシア」、『ドラマチック・ロシア in Japan 文化と史跡の探訪』長塚英雄編、生活ジャーナル、2010年3月。pp. 108 - 132 .
- 24 ミハイロワ・ユリヤ *Japan and Russia. Three Centuries of Mutual Images*, Yulia Mikhailova, M. William Steele (eds), Folkestone: Global Oriental, 2008, 237 pp.
- 25 ミハイロワ・ユリヤ「日露戦争後のロシアの新聞に見る日露関係と日本」、『異郷に生きる 』中村喜和、長縄光男、ポダルコ・ピョートル編、成文社 2010年7月5 - 91頁。
- 26 ミハイロワ・ユリヤ 'Intellectuals,

Cartoons and Nationalism during the Russo-Japanese War, ' *Japanese Visual Culture*, Mark W. MacWilliams (ed.), M.E. Sharpe, 2008, pp. 155-176.

〔学会発表〕(計5件)

1 長縄光男 「ゲルツェンと『ロシアのリベラル』 チチエーリンとの確執を中心に」『ロシア思想史研究会』早稲田大学、2009年5月30日

2 ポダルコ・ピョートル Китайский фактор" в системе подготовки российских дипломатов и востоковедов. First East Asian Conference for Slavic Eurasian Studies 2009年2月6日、北海道大学

3 澤田和彦 「来日ロシア人研究会」の満洲関係の研究について」〔日露2カ国語〕研究セミナー「ハルピン - 異種混交の街 - 」2008年7月12日 東京外国語大学アジア・フリカ言語文化研究所 3階大会議室、

4 ミハイロワ・ユリヤ 「From War to Peace: Russo-Japanese Relations in Mass Media (1905-1908)」2008年9月19日~23日、ヨーロッパ日本研究学界(イタリア)

5 中嶋毅 "Educating Engineers in Russian Harbin, 1920-1958." : International Workshop "Mapping the History of Northeast Asia," held at the Australian National University Kioloa Campus, 28-30 November 2008

〔図書〕(計4件)

1 中村喜和、長縄光男、ポダルコ・ピョートル編『異郷に生きる』成文社、2010年、354pp.

2 中村喜和、長縄光男、ポダルコ・ピョートル編『異郷に生きる 』成文社、2008年、244pp.

3 長縄光男 『ニコライ堂遺聞』成文社、2007

年 3 月 28 日、371 頁

4 澤田和彦『白系ロシア人と日本文化』 成
文社 2007 年 2 月 28 日 390 頁

6 . 研究組織

(1)研究代表者

ポダルコ・ピョートル (PODALKO PYOTR)
青山学院大学・国際政治経済学部・准教授
研究者番号：50383493

(2)研究分担者

エルマコワ・リュドミラ (ERMAKOVA LYUDMILA)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：70316032

太田 丈太郎 (OOTA JOTARO)
熊本学園大学・商学部・教授
研究者番号：30258644

サヴェリエフ・イゴリ (SAVERIEV IGORI)
名古屋大学・国際開発研究科・准教授
研究者番号：60313491

ミハイロワ・ユリア (MIKHAIROVA YULIA)
広島市立大学・国際学部・教授
研究者番号：00285420

(3) 連携研究者

清水 俊行 (SHIMIZU TOSHIYUKI)
・2008 年度まで研究分担者
神戸市外国語大学・外国語学部・准教授
研究者番号：90305673

澤田 和彦 (SAWADA KAZUHIKO)
・2007 年度まで研究分担者
埼玉大学・教養学部・教授
研究者番号：70162542

長縄 光夫 (NAGANAWA MITSUO)
・2007 年度まで研究分担者
横浜市立大学・名誉教授
研究者番号：60068757

中村 喜和 (NAKAMURA YOSHIKAZU)
・2007 年度まで研究分担者
一橋大学・名誉教授
研究者番号：40012356

中嶋 毅 (NAKASHIMA TAKESHI)
・2007 年度まで研究分担者

首都大学東京・都市教養学部・准教授
研究者番号：70241495

安井亮平 (RYOHEI YASUI)
・2007 年度まで研究分担者
早稲田大学・名誉教授
研究者番号：90063635